

Angie(アングル) ハチ公広場の陶板大壁画と原画作者がいる同窓会文集 牧内雪彦(中47・高1回) 表2

【稲穂】第17号の発刊にあたって 世の中の動きに合わせた同窓会活動へ 松原秀幸(高19回) 4

【わたしの人生】 まだまだこれから―四股で乗り切ってきた人生― 福澤盛吉(中45回) 6

郷里を離れて50年―そして今思うこと 伊原江太郎(高18回) 10

【いま第一線】 地球を読み解き、極地を拓く 菅沼悠介(高47回) 14

ジャズに魂を揺さぶられて 鎌倉淳(高42回) 18

パッケージデザインという仕事 塩沢善徳(高31回) 22

●フレッシュトーク 信州を出てロボットに出会う 櫻井駿一(高71回) 26

経験は最良の師 唐澤翔太(高69回) 28

●写真特集 写真でたどる飯田高校のいま／むかし 運動班編 30

●55歳のつづやき 高35回生 10人から 34

人生の雑感 前田丈典(高35回) 38

津波とウイルス、いま思うこと 松野美保(高35回) 40

●令和元年在京飯田高校同窓会・総会報告 42

◇総会・懇親会写真 43

◇卒業回別写真 46

◇講演「いいだ人形劇フェスタ」のいま 原田雅弘(高34回) 50

◇幹事団顛末記「夢の中へ―探しものは何ですか？」 柳瀬宏司(高34回) 54

●特別寄稿 外の目から見た在京飯田高校同窓会機関誌『稲穂』 高柳俊男(法政大学国際文化学部教授) 56

【まだまだ現役】 フルマラソン挑戦10年! 荒尾一義(高15回) 58

海外生活―そして残ったもの、シャドーボックス 福島玲子(高22回) 62

「闘う腫瘍内科医」として40年 佐々木康綱(高23回) 66

【つながるふるさと】 加齢を超えた華齢なる音楽祭 福島茂喜(高12回) 70

飯田高校正門整備基金によせて 前沢元(高22回) 74

【日々つれづれ】 北原白秋ゆかりの地に住んで 島岡明男(高13回) 76

【われら同志会】 「飯田ゆかりの地を歩こう会」はこうして始まった 下島明(高19回) 80

戦時中の2人の「英語の教師」 平田達(中47回) 83

●文芸の広場 ◇短歌 奥村晃作(高7回)／草田照子(高15回)／脇坂英文(高17回) 84

◇俳句 稲垣隆俊(中43回)／林璋(高5回)／北林巖(高17回) 86

◇川柳 原俊夫(高9回)／宮下恭一(高18回)／みんなの川柳 87

◇文芸の広場に寄せて十募集要項 85

●今号の表紙作家 リタイア後の旅の風景を油彩画に 矢澤利彦(高13回) 88

●同期会便り ◇同期会便り(中47・高6・12・15・17・21・22・24・25・32・35回) 89

在京飯田高校同窓会役員／卒業回早見表 96

令和2年度在京飯田高校定時総会 97

オンラインイベントのご案内／HP・広報部会案内 98

『稲穂』協賛金報告／サポーター募集 99

在京飯田高校同窓会無料相談室／たかまつ会案内 100

編集後記 101

原稿募集要項 101



表紙作品 矢澤利彦(高13回)  
「初夏のプロチダ島」

2018年6月、イタリアは8回目の訪問でプロチダ島を訪れた。ナポリから船で50分ほどの小さな島だ。とりどりの色彩あふれる街の中心には黄色い教会が建っている。青い海、白い船がそんなカプリルな街を一層引き立たせていたのが印象的だった。そんな街の一部を切り取って、縦長の構図で制作してみた。

・裏表紙「コッレ風景」

2019年4月下旬、イタリアアヘスケッチ旅行。コッレはフィレンツェから北へ1時間余りの観光ルートから外れた小さな町。市街地から20分ほど丘を登り、畑の中からのコッレ旧市街を描いた。・関連記事は88ページ